

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



イラスト／清水直子

第33回

福島の皆さんを応援したい

喜ばれた「母の会」の

情報提供

東日本大震災から2度目の夏がやってきました。「母の会」は今年、原発事故に伴う不安定な状況からこれまで情報提供も思うようにできなかった福島県での活動に、しっかりと取り組みたいと思っています。

そのスタートに6月4、5日の両日、いわき市を起点に川内村、南相馬市、相馬市、新地町、郡山市、二本松市、福島市の教育委員会と保育健診の担当部署、福島県教委、県の保育担当部門を訪ねました。アレルギーの病気の適切な理解と支援に役立つ啓発資料を届け、被災した方々と向き合ってくたさっている専門職の方々向けの研修機会の提供など

をご案内してきました。

最初に訪ねたいいわき市は、東京電力福島第一原子力発電所の周辺から避難している子どもたちも多い地域です。教育委員会では昨年8月以来の再訪をとても喜んでくださり、研修会の実施などを検討していただくことになりました。いわき市から次の訪問地である南相馬市へは、福島第一原発の警戒区域の外縁をたどるように走る国道399号線を進みます。原子力発電所がある進行方向の右側に曲がる道はすべて「進入禁止」、放射線の防護服に身を固めて作業をしている人にも何度か出会いました。

途中に立ち寄った川内村でも「母の会」の情報提供を大変に喜んでくださり、南相馬市の教育委員会では、学校給食に使う食材の放射線検査に



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

追われている中でも、食物アレルギーの対応を求める声が上がってきている状況で、研修機会の案内は大変に喜ばれました。

秋には5回の 研修会を実施へ

この訪問の後、相次いで研修会実施の依頼が寄せられ、既にこの秋、福島市、郡山市、いわき市などで5回の研修会を実施することが決まっています。連携のある小児アレルギー専門医や管理栄養士さんも快く講師を引き受けてくれました。「母の会」ができることはほんの少しかもしれませんが、でも「最も大変な思いをされている方たちのお役に立ちたい」、「そんな思いで研修会を大成功させたいと思っています。」